

● 国際Aレベル資格の大学入試における活用について



- ✓ 2024年6月の制度改正により、国際Aレベル資格を取得した者・欧州バカロレア資格を取得した者を、日本の大学入学資格を有する者として法令上に追加
- ✓ 国際Aレベル資格に関しては、現在Oxford International AQA Examinations・Cambridge Assessment International Education・Pearson Edexcel・Learning Resource Networkの4機関により審査等が実施されており、いずれの機関が授与したものについても、日本の大学入学資格として認められる ※資格の概要や活用事例については、別添（Cambridge Internationalの例）参照

日本の大学入学資格について



下記のいずれかに該当すれば、我が国の大学入学資格が認められます。

※いずれにも該当しない場合も、各大学で実施する個別入学資格審査により、当該大学に限っての入学資格が認められる場合があります。

1. 日本において高等学校等を卒業している場合

2. 外国において初等中等教育課程を修了している場合

(1) 初等中等教育が12年以上の国の場合

- 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者
- 高校の課程と同等の課程を有するものとして認定された在外教育施設の当該課程を修了した者
- 国際的な認証団体（WASC・ACSI・CIS・NEASC・Cognia・COBIS）から認定を受けたインターナショナルスクールにおける12年の課程の修了をした者

(2) 初等中等教育が12年未満の国の場合

- 高校に対応する学校の課程（12年未満）を修了 + 指定された準備教育課程を修了した者
- 高校に対応する課程として指定された学校の課程を修了した者

3. 上記1、2のいずれにも当てはまらない場合

- 国際バカロレア資格、アビトゥア資格、バカロレア資格、GCEA資格、国際Aレベル資格、欧州バカロレア資格を取得した者
- 日本において、指定されたインターナショナルスクールの課程を修了した者（※当該課程が12年未満の課程の場合、さらに指定された準備教育課程の修了が必要）
- 外国における12年の課程修了相当の学力認定試験に合格した者で、18歳以上の者（※当該課程が12年未満の課程の場合、さらに指定された準備教育課程の修了が必要）

※「12年の課程を修了した」とは、「正規の学校教育における12年目の課程を修了した」という意味です。

令和6年6月の改正により追加

※「大学入学に関し高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者を指定する件の一部を改正する告示」（令和6年文部科学省告示第66号）

●ケンブリッジ国際Aレベル資格の大学入試での活用について

- ケンブリッジ国際Aレベル(Cambridge International A Level)は、英国のケンブリッジ大学の傘下であり160年の歴史を持つケンブリッジ国際教育(Cambridge International Education)が運営。通常、高等学校最後の2年間で受講する科目別の資格。
- 英国GCE Aレベルが英国の教育制度のもとで英国内で受験される資格であるのに対して、ケンブリッジ国際Aレベルは英国外の学校、及び英国内のインターナショナルスクールで修得される資格。ケンブリッジ国際Aレベルは毎年、世界125ヶ国で30万人以上の生徒が受講。
- 授業、試験における使用言語は英語。全試験がケンブリッジにおいて採点され、合格者に資格が授与される。
- 国際的な資格の認定・比較を行う英国の公的機関であるUK ENICは、ケンブリッジ国際Aレベルが英国GCE Aレベルと資格の内容と試験プロセスの両面において同等のスタンダードであることを認定。

ケンブリッジ国際Aレベルのプログラム

- 典型的な進学過程は以下のとおり。国際中等教育修了資格であるケンブリッジIGCSEの修得後、Aレベル課程の1年目にあたるASレベルで4科目を学習・受験しASレベル(Cambridge International AS Level)資格を取得。2年目には1年目に受講した4科目から3科目へ絞り学習。2年目の最後にA2レベル試験を受験。ASレベルの成績が繰り越され、総合してAレベルが取得できる。
- ASレベルはAレベルの半分の内容。1年目の最後にASレベルを受験せず、2年間を通して学び、2年目の最後にAレベル資格を受験するパターンも可能。



- AS及びAレベルで下記9科目群から55科目を提供。ケンブリッジ国際認定校はこれらの中から科目を選択し生徒に提供。必須科目はない。全科目のシラバスは公開されている。

英語	数学	理科
外国語	人文学	技術
社会科学	美術	一般教養

科目に関する深い知識・概念の理解・高次の思考力・論じる力を、1科目につき2年間計360授業時間で学ぶ。

試験概要

- 試験日程: 世界で毎年6月、11月(インドのみ3月)に試験を実施。
- 成績発表: 成績発表は試験時期によって8月中旬、1月中旬(インドは5月中旬)。
- 成績評価: 科目別にASレベルはaからe、AレベルはA*からEまで。e/E以上は合格。

日本の大学入試における活用事例

以下は、ケンブリッジ国際教育の「[認定情報データベース](#)」に登録されている情報の中から概要をまとめたもの(2024年7月現在)。ケンブリッジ国際Aレベル等の資格が、大学入試における出願条件、あるいは評価対象として活用される例。

➤ 国際基督教大学(English Language Based Admissions, 2025)

出願条件として、Aレベル、ASレベル(該当する場合)、IGCSEから5科目の資格を取得していること。そのうち、少なくとも2科目はAレベルであること。外国語科目の場合、第一言語以外の科目であること、等。スコアは評価の対象となる。

➤ 東京大学(PEAKプログラム, 2025)

国際Aレベルは評価対象となり、少なくとも3科目のA評価以上のAレベル資格を取得していること。

※国際環境学プログラムでは、数学でA評価のASレベル、もしくはB評価のAレベル以上の評価を取得していること。

➤ 東北大学(FGLプログラム, 2025)

国際Aレベルは評価対象となり、数学、物理、化学においてAレベル資格を取得していること(一部のコースは数学のほか、物理、化学、生物から2科目)。

➤ 山梨学院大学国際リベラルアーツ学部(2025)

ケンブリッジ国際AS・Aレベルは評価対象となり、(1)少なくとも1科目のAレベルと2科目のASレベル、もしくは(2)少なくとも2科目のAレベルが入学要件となる。

英語力証明として、AS及びAレベルの英語科目、及びIGCSEの英語科目を評価対象とする。